

オピニオン

良い医療制度を守るために

—まとまりませんが思いつくままに—

手稲区支部 高田 公彦

実は私も一年前には小泉首相にわずかな期待を持っていた一人でした。みんなが苦しいのだから少々痛みを分かち合うのもしょうがないかとも思っていました。しかしこの一年余りに行われた改革（医療に関しては改悪というしかありません）をみると期待は全く裏切られ、力のあるところ（献金や天下り、見返りの大きいところ）には非常に甘く、ただ国の財政支出を減らすことだけが優先されています。経済財政諮問会議や総合規制改革会議のメンバーには医療関係者が入らず企業のトップなど財界主導で大企業や富裕層優遇、弱者切り捨ての方針が明らかです。医療は利益を追求しないはずが、営利企業の参入、自費医療の拡大と民間医療保険の導入で、医療を巨大市場化し、儲けの対象としようという目論見が強く反映されています。医師会、医療関係者の努力で最悪の事態にはかろうじて至っていませんが、依然として目を光らせないと危ない状態が続いています。

昔の医者には偉かった。ある講演会で、「昔のお医者さんは貧乏人からはお金を取らず、金持ちから取り、病気を治してくれるフェアな印象があり、尊敬されていた。今の医師、医師会も国民から尊敬されるようにならなければ何を主張しても受け入れられない。」とのお話がありました。確かに一理あります。医療は人の命、健康にかかわることで、営利を求めない建前になっています。患者さんの健康、利益だけを考え、最善の医療を提供するのが努めであり、理想です。しかし医療機関の経営も苦しさを増しています。昔のように医師が少なく、優遇された時代とは違い、競争も激しく、経営のことも考えないとつぶれてしまうでしょう。「患者をみたらお札に見えるでしょう」と毒舌を言った人

もいますが、多くの医師はそうではありません。なるべくお金のことを考えなくても良い様な、また医療ミスを誘発するほどの患者数を診なくてもやっていけるような診療報酬制度にして欲しいと思います。

医師の仕事は健康を害した人を治したり、楽にする、または病気を予防して健康な毎日を送る手助けをすることです。これが何より優先されるべきで、必要のない検査、治療はしないように、必要な検査、治療は妨げられることがないようにシステムを作るべきです。健康をあずかる真面目な医師にはあくせくしないで済むくらいの収入は保証されるべきです。そうでなければ収入を得るために検査、治療を必要以上にすることにつながりかねません。そんな医師には誰もが自分の健康を安心して任せられないはずです。

国の仕事、責任はいろいろあると思いますが、一番は国民が健康であり、安全で快適な生活を送れるようにみんなで助け合い、支え合うシステムを提供することです。これが何よりも優先されるべきです。もちろん外国からの侵略を防ぐ国防も大事ですが、もっと身近な健康を害した時、失業したとき、災害にあったときなどの助け合いの制度を充実させることです。税金をもっとこういうことに支出すべきです。公共工事も必要なものはきちんとすべきですが、今までは外国に比べてこちらの比率が異常に大きかったために国の財政は圧迫され借金（国債）が増えてしまい、破産寸前です。日本は国債の評価まで下がりました。無駄を省くことは大事ですが、医療をはじめとする社会保障をただ削るのは間違いです。必要な助け合いにはもっと予算を割くべきです。

医療費が無料は無駄が出る。病気になった時は少ない自己負担で十分な医療を受けられるべきです。しかし、全く無料になるとコスト意識がなくなり、患者さんも必要以上の薬や検査を希望したりして無駄な医療費につながる場合があります。私は定額、包括はなるべくせず、ごく少ない定率の負担をすべきと思っています。しかし払う余裕のない方には配慮が必要です。

米国をなんでも見習うべきではない。良いところは見習うべきですが、すべて正しい訳ではありません。医療制度にしても日本のほうが良いところは多くあります。優れた医療知識や技術、卒後研修制度などは学ぶところかも知れません。しかし米国が導入してきたマネージドケアなど保険会社が医療を制限したり、金持ちだけが良い医療を受けられるというような制度は良くありません。いろいろな国の良いところだけを取り入れ、日本の良いところは残していくのが、最善の方法でしょう。何しろ日本はすでに世界一の長寿と健康達成度をGDP比では世界18位の少ない医療費で達成しているのです。

日本の社会は利権、コネの社会。たぶん末端までこの体質は染みついています。総論、建前では反対、非難している人も、自分や自分の周りのことでは、目をつぶっていませんか。(総論賛成、各論反対) 本当は人を非難するほど陰

では汚いかもしれません。(自戒も少々含めて)

日本で一番改革しなければならないのは政治とマスコミではないか？

政治は献金、天下りの問題をクリアしなければ利益誘導、汚職はなくなりません。マスコミは政府の手先のような発表が時々目に付きます。単なる政府方針の段階であたかも決定したかのような報道、一方からの狭い目で見た情報を伝えて国民を誘導するようなことがあります。また無責任な低俗なゴシップまがい、興味本位の記事が多く、書いた内容が社会に引きおこす結果に責任を持つ意識もないのではないのでしょうか？報道は事実を正確に伝えることが一番の使命で、意見を言うときには必ず対立する意見、違う見方なども伝えるべきです。

医師議員を増やす。坂口厚労相は小児科医師でした。だからというわけではありませんが、親しみを感じます。またその発言には根底にはやはり医師の考え、常識があるように思われます。「係長は社長に逆らえない。」という言葉には少しがっかりしましたが、彼がいなければもっとひどいことになっているような気がします。医師会は政党にこだわらず医師議員の応援とその数を増やす努力をもう少ししていったらどうでしょう？

(たかだ小児クリニック)

